

## 家庭や地域との連携を生かした安全・安心な学校づくりと校長の役割

仙台市小学校長会

## 1 はじめに

自他の生命尊重の理念を基盤として、生涯にわたって健康・安全で幸福な生活を送るために必要な資質や能力を育て、心身の調和的な発達を図ることは、学校教育の重要な目標の一つである。しかしながら近年、学校管理下での事故災害に加えて地震等の自然災害、学校内外の被害等により、多くの尊い生命が失われるなど、児童生徒の安全を取り巻く状況は、一層深刻化してきており、安全教育の重要性をしっかりと認識していかなければならない。

仙台市においても、近年、声かけ犯や痴漢・通り魔等が増加し、劣悪化してきている傾向にあり、その多くは、登下校時や帰宅後に、小学生や中学生の女子を中心として発生している。また、危害を加える予告電話などもあって、各学校での初期対応や継続した対応への配慮が求められているところである。

特に、声かけ犯への対応として、防犯の視点から登下校の安全をどう確保するかを見直していかなければならない。登下校の安全確保については、これまで交通安全の立場から進められることが多かったが、子どもの犯罪被害の防止を意図した安全管理「自分の身は自分で守る」ことができる具体的、実践的な防犯教育の推進が求められるようになった。このように一つのことを取り上げても、問題が多様化し、学校としてはいろいろな状況を踏まえた対応を考えていかなければならなくなってきている。この現状を踏まえたとき、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが喫緊の課題であり、安全で安心な学校づくりの重要な条件であると考えらる。

仙台市では、この夏「8.16宮城地震」に見舞われ、今後起きると予想される宮城県沖地震に備えての危機管理意識が高まっている中、ここでは特に登下校時や帰宅後の安全をどう確保するかに視点をあてて、家庭や地域との連携を生かした学校づくりと校長の役割について探っていきたい。

## 2 仙台市の実施状況

## (1) 仙台市教育委員会の取組

仙台市教育委員会では、「杜の都の学校づくり」を策定し、五つの施策を柱として学校教育を推進している。「安全で安心な学校づくりプラン」は、その柱の一つであり、具体的には、「防犯対策」「防災対策」「学校施設整備」の三つの事業を行っている。

「防犯対策事業」の取組については、具体的に次の内容があげられる。

## ① 学校防犯巡視員派遣事業

- ・ 小学校における安全対策を推進するため、学校施設内及び周辺の巡回や不審者等への声かけなどを行う学校防犯巡視員（愛称：まもらいだー）を派遣する。

平成16年度 —— 全市立小学校に派遣 平日授業日に3日毎 各学校2時間の巡視

平成17年度 —— 全市立小学校に派遣 平日授業日に5日毎 各学校2時間の巡視

## ② 児童生徒の安全確保事業

- ・ 「仙台市地域ぐるみ生活指導連絡協議会」「仙台市校外指導連盟」「学校警察連絡協議会」等の活動への支援を行うことにより、学校内外における児童生徒の安全を確保する。

## ③ 携帯用防犯ブザー購入補助事業

- ・ 各学校の PTA が児童生徒の安全確保のために携帯用防犯ブザーを購入する際、購入費の 1/2 を補助することによって、その所持携帯の促進を図り、児童生徒の通学時等における安全を確保する。

平成16年度 —— 小学校・中学校・養護学校対象 計 49,352 個

平成17年度 —— 小学校1学年及び他市町村からの転入生を対象

## ④ 防犯・子どもを守ろうデー実施事業

- ・ 全市立学校が毎月、第2金曜日に警察、青少年指導センター、PTA、地域ぐるみ生活指導連絡協議会、仙台市校外指導連盟、地域の方々の協力のもと、地域巡視を行い、児童生徒の登下校時における安全確保に努める。

平成15年度 —— 12月第1回全市一斉に実施 15,000 人参加

平成16・17年度 —— 学校ごと毎月第二金曜日に実施 5月と12月には全市一斉

## ⑤ 学校防犯ボランティア実施事業

- ・ PTA や防犯協会、地域の方々を対象に学校ボランティア巡視員を募り、児童生徒の登下校時における安全確保を図る。平成16年度から巡視員の募集を行い、17年度から活動が行われている。

## ⑥ 学校フェンス・門扉設置事業

- ・ 不審者の侵入を防ぎ適正な管理を行うため、学校の安全対策として門扉・フェンスを整備する。

平成15年度21校、平成16年度14校、平成17年度7校

## ⑦ その他

- ・ 学校防犯車両 —— 市内における声がけ犯・痴漢・通り魔等の増加ならびに劣悪化を踏まえ、教育局内の公用車・給食車約100台を「学校防犯車両」として児童生徒の犯罪被害防止と安全確保を図ることを目的に運行している。
- ・ 不審者情報の通報（Fネット）の配信 —— 児童生徒を対象とした悪質な事件が多発していることから、事案発生の初期段階において、学校等に必要な情報を提供し、適切な未然防止措置や自主的な防犯活動の推進のために、仙台市立小中高等学校については仙台市教育委員会教育相談課が県警より配信を受け、内容を検討の上、全市もしくは一部への学校配信を行う。

## (2) 仙台市小学校長会の取組

仙台市小学校長会では、仙台市教育委員会の施策をうけて、平成17年度の活動の重点「学校経営の充実」の中に「安全・安心な学校づくり」を盛り込んで、その推進を図っている。校長会の生徒指導部においては、昨年度に引き続いて「学校経営における生徒指導の今日的課題への対応～安全・安心な学校づくりの課題と校長の役割～」というテーマで研究を進めている。

また、5月の研修会・例会では「学校における危機管理体制の確立を目指して」と題しての話題提供があり、不審者対応避難訓練や緊急時引渡訓練等の実践事例が紹介され、危機管理への構えを新たにした。

## 3 家庭や地域との連携を生かした取組

### (1) 「学校ボランティア防犯巡視員」について

#### ① 実践事例1 PTAが中心となって取り組んでいる事例 中野栄小学校

仙台市宮城野区にある中野栄小学校は、仙台市東部に位置し、学区は多賀城市と隣接している。平成17年度開校30周年を迎え、児童数602名、教職員42名でスタートした。学区内を仙石線・国道45号線

が横断し仙台港に隣接するなど交通の要所にもなっている。地域の人々は、開校当時から「私たちの学校」という意識が強く前向きの姿勢で臨み、大変協力的である。

求める学校像の一つに「地域とともに歩む開かれた学校」をかかげ、そのことについて校長は「学校を地域に開いて、地域にお住まいのたくさんの皆様方の協力を得ながら学校教育を進めていくということです。PTAの枠を超えて、子育てを終えられた地域の方々のお力を子どもたちのために貸していただきたいと願っております。町内会・体育振興会・老人クラブ・商工振興会・子ども会・スポーツ少年団など、関係諸団体の力が結集された地域の教育力が、総合的な学習に役立つだけでなく、子どもたちの健全育成面でも大いに関わってほしいと願っております。」と述べ、地域に強く働きかけている。

【地域巡視が始まった経緯】

平成13年10月 中野栄学区内に頻繁に不審者が出没

- ・ 16日 学校から「不審者の出没について」のたより
- ・ 19日 PTA会長名でたよりを発行 →→→→→

【たより「子どもたちがあぶない 親たちで守ろう」の内容】

- ① すぐにできることから始めていきたい→下校時間帯に自宅付近や通学路に出て子どもたちの様子を見守る。
- ② 子どもたちの安全を守るために自分ができることに○を
  - ・登校時通学路まで出る
  - ・下校時間帯に通学路に立つ
  - ・下校時間帯に近所を巡回する
  - ・定期的な巡回に参加する
  - ・下校時間帯・夕方買い物の時巡視中の札をつける
- ③ この他に、子どもたちの安全を守るために「何ができるか」書いて学校の担当者へ提出を

- ・ 26日 寄せられた回答をまとめる。
- 11月に入って不審者・変質者による被害が2件あり
- ・ 12日 PTA臨時地区委員会を行う
- ・ 13日 PTA防犯講演会の案内を出す
- ・ 14日 PTA会長名でたより part2 を発行

【たより「子どもたちがあぶない親たちで守ろう part2」の内容】

- ①学校の対応 学年内で下校時刻をそろえ、なるべく一人で下校させないようにする。
- ②「子どもたちがあぶない」に寄せられた回答を参考に、PTA臨時地区委員会で話し合われたこと
  - ・地区毎に巡回を
  - ・地区内の安全点検
  - ・講演会の開催
  - ・対応マニュアルの作成
  - ・町内会や防犯協会、警察署への協力依頼
- ③地区内巡回のお願い
  - ・巡回可能な曜日・時間帯（なるべくお子さんの下校時刻に合わせて、無理のない範囲内で）

- ・ 16日 PTA防犯講演会を行う
- 「子どもの安全を守る」仙台東警察署生活安全課  
(於中野栄コミュニティセンター 19:00~)

【校長としてのかわり】

中野栄小学校では、このようにして平成13年度から地区内巡視パトロールが開始され、今日に至って

平成13年10月19日

中野栄小学校  
PTA会長 関原 勲

PTA会員の皆様へ

## 子どもたちが あぶない

### 親たちで守ろう

10月16日付学校から配布された「不審者の出没について」のプリントでご承知だと思いますが、中野栄学区内では不審者が頻繁に出没し子どもたちをわらっています。  
PTAとしては、子どもたちの安全のために、すぐにできることから始めていきたいと考えました。第一歩として下校時間帯に自宅付近や通学路に出て子どもたちの様子を見守ってほしいと思います。  
他に、近通学路まででてみる・下校時間帯に立つことができる・時分の空いている時間に近所を巡回することができる など、できることから始めましょう。事件になってからでは遅いです。

私たち親の力で子どもたちを守りましょう。

《自宅付近、通学路に出る時》  
PTAで配布した保護者用の名札に下の用紙を入れ胸につけてください。

下校時間帯  
月～金 13:30～16:30  
土 11:45～12:20  
この時間帯の中で都合のいい時間に  
何分でも、買物の途中でも結構です

**中野栄小 PTA 巡視中**

今後の対策を協議するうえで、参考にしたいと思います。  
下記の用紙にご記入の上、佐藤千春先生あてに10月28日(金)までご提出ください。

子どもたちの安全を守るために、自分ができることに○をつけてください。

子ども名 \_\_\_\_\_  
年 組 \_\_\_\_\_ 児童名 \_\_\_\_\_  
保護者名 \_\_\_\_\_

・登校時通学路まで出る ・下校時間帯に通学路に立つ ・下校時間帯に近所を巡回する  
・下校時間帯・夕方の買物の時など巡視中の札をつける ・定期的な巡回に参加する  
この他に、子どもたちの安全を守るために「何ができるか、何をしたいか」をお考えをお書きください。



「こんにちは。まわってくれてありがとう。」  
地区内巡視パトロールの様子

る。その運営の中心となったのがPTAの本部役員・各専門部役員であり、おやじの会のメンバーである。スピーカーを備えた車で防犯パトロールを実施し、夏休み中は夕方の地区巡視のほかに夜間の巡視も行っている。校長もパトロールに加わって、子どもたちへの呼びかけを行っている。手を振ったり、あいさつをしたりして応えてくる子どもたちとの姿からも、「子どもたちが地域の中で育てられているということ」や「学校が地域とともに歩んでいるということ」を実感すると校長は語る。

中野栄小学校の巡回パトロールボランティアは、これまでの取組をベースにして本年度も実践が積み重ねられているが、PTA中心の運営のみならず地域の組織を生かして地域全体で取り組んでいく方向性も探っている。

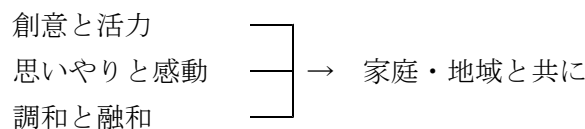
## ② 実践事例2 地域の人々が中心となって取り組んでいる事例 旭丘小学校

仙台市青葉区にある旭丘小学校は、西隣に市民の憩いの場としての台原森林公園をひかえ、自然環境に大変恵まれた地域にある。開校39年目を迎え、開校当初より児童数は減少してきたが、ここ5～6年増加の傾向がみられ、平成17年度は、児童数350名を超えてスタートした。

地下鉄「旭ヶ丘駅」から学校までは徒歩5分以内と交通の便に恵まれ、さらに青年文化センターや仙台市科学館、仙台市文学館等が隣接し、文化ゾーンとなっており学校や児童を取り巻く社会環境も大きく躍動している。地域の人々も、大変協力的である。

校長は、学校経営の基盤に、

- ・ 子どもたちが、学校に行くのを楽しみにしている旭丘小学校
- ・ 「振り返るゆとり」「じっくり挑戦するゆとり」を大事にする学校



をかかげ、何よりも地域の方々の学校を思う熱い気持ちに支えられ、「地域と共に生きる学校」を念頭に置いて経営にあたっている。

### 【「不審者から子どもを守り隊」の発足とその動き】

平成16年4月5日 18:00~校長室 児童の登下校時の安全確保についての話し合いをもつ

(案内状は校長・PTA会長の連名で)

出席者 町内会長4名 防犯協会 PTA会長・副会長校長 教頭 教務主任

資料として不審者対策として学校で取り組んでいることについてのプリントを用意

4月 「旭丘小学校児童の登下校の安全確保のために(お願い)」のたよりを学区町内に

#### 【「旭丘小学校児童の登下校の安全確保のために(お願い)」のたよりの主な内容】

- ① 普段行っている散歩や買い物などを、児童の下校時間帯にさせていただいたら幸いです。その際、腕に防犯の腕章を着けていただくとなおよろしいかと思えます。もちろん、家の前に出てこえがけしてくださってもけっこうです。
- ② 下校時の子どもたちに「気をつけて帰りなさいね」などの声がけをしていただくとありがたいです。
- ③ もし不審者に遭遇したら迷わず110番通報すると共に、学校にも連絡いただければ幸いです。

4月30日 「不審者から子どもを守り隊」の結成式が行われる

17:00~ 発起人は老人クラブ 旭ヶ丘長生会会長(防犯協会の代表でもある)

学校からは校長・教頭が出席 校長・PTA会長の連名で委嘱状を交付する

教頭からは詳細について説明

仙台北警察署の生活安全課の講話あり

「子どもを狙った犯罪情勢、子どもの安全対策についての取組について」

【不審者から子どもを守り隊】の結成の趣旨と活動内容

- ① 池田小学校の児童殺傷事件以来、児童生徒を巻き込んだ忌まわしい事件・事故が毎日、新聞やテレビをにぎわしています。こうした事件事故の報道を見る度に心が痛み、「自分の孫は大丈夫か」とか、近所の子どもたちにも関心をもつようになり、誰からともなく「この地域の安全は、われわれ長生会で守ろう」との決意表明に至った。
- ② 隊員 委嘱状を受けた隊員は25名
- ③ 活動の内容や時間  
1日7～8名で交差点での監視や通学路のパトロール活動  
登校時 7：40頃～8：20頃まで 下校時 14：00頃～17：00頃まで  
午後の場合は、散歩（犬の散歩も含む）や買い物の時間を利用する機会が多く、また、森林公園なども低めた広い範囲での活動を行う。
- ④ 「守り隊通信」の発行  
写真入りで隊員の活動の紹介や事務局からのコメントが記載

- 5月 6日 PTA会長の名前でPTA会員向けのプリントを配布  
14日 「不審者から子どもを守り隊」のことが新聞報道に取り上げられる。
- 6月25日 PTA指導者研修会で、校長は不審者対策についての取組について地域全体で見守っていこうとする支援体制や学校としての姿勢について話す。
- 7月 9日 中央町内会でも「守り隊」発足
- 11月26日 「不審者から子どもを守り隊」の反省・検討会が行われる。  
校長・教頭が出席 御礼を述べ、表彰状とホイッスル60個を贈る

【守り隊通信 第4号 平成17年4月15日発行より】

感謝をこめて 仙台市立旭丘小学校長

「おはようございます」「元気ないよ、大丈夫か?」「走らないでね」朝の通学路で、あちこちから温かい声かけられます。氷点下の寒さが身にしみる朝も、風雨の強い朝も、緑色のジャンパーを目にしない日はありませんでした。

「旭丘小学校児童の安全を守り隊」が発足して約9ヶ月、皆様のご支援に深く感謝申し上げます。皆様に温かく見守られながら登下校できる子どもたちは「安心」という大きな贈り物をいただいているように思います。あるいはそれ以上に、皆様と子どもたちとのかかわりが感じられ、生きた「心の教育」につながっているように思います。これからも、皆様の温かいご支援をいただきながら、全職員が一丸となり、共に子どもたちを育ててまいりたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

【校長としてのかかわり】

旭丘小学校では、「この地域の安全はわれわれ長生会で守ろう」という地域の老人クラブの自主的な活動で子どもたちが守られている。「守り隊」のメンバーは自らの活動に誇りをもち喜びを感じている。学校では緊急の場合も含めていろいろな情報をしっかり伝えるとともに、「守り隊通信」などの情報をそのまま必ず職員に伝えている。巡視の当番は体調などを考慮し、自分たちで分担し反省会も定期的に開いて記録をすなど責任をもって巡視している。反省会には交番の警察官を呼んで行うなど「自分たちの町を守る」という意識の高さがうかがえる。子どもたちとのあいさつや言葉をかわすことで「元気の素をもらっている」「このひとときが一番心をいやされる」という。校長・教頭は反省会に出席し感謝の気持ちを表すとともに、見守られている子どもたちもまた感謝の気持ちを作文等で伝えている。

(2) その他の取組

① 実践事例3 危機管理対策委員会の設置等の取組の事例 加茂小学校

仙台市泉区にある加茂小学校は、開校27年目を迎えた児童数528名、教職員35名の学校である。地域に開かれた学校を目指し、保護者や地域の人々とのかかわりを大切にし、地域の素材を生かした学習指導の推進を図っている。

### 【危機管理対策委員会の設置と校長としてのかかわり】

平成15年度に危機管理対策委員会を立ち上げ、引き渡し訓練を行うなど早くから危機管理への意識を高めてきた。危機管理レベルを設定し、緊急連絡網のテストも行っている。校長が委員長を務め、教頭・教務・生徒指導主任、二つの連合町内会長、子ども会育成会、PTA会長・副会長・健全育成委員長の19名で構成し、定期的に2回の会議を持っている。引き渡し訓練は本年度で3回目になる。

安全教室では、不審者から身を守る方法について泉警察署の婦人警察官2名の方に子どもたちが具体的に指導を受けた。危険箇所マップ、子ども110番の家は毎年巡回をして確認している。「防犯・子どもを守ろうデー」の日は、PTA・地域をあげて取り組み、職員も登校時と下校時に学区内を巡視している。

### (3) 成果と課題

- ① 学校では危機管理に関する情報を発信することで、防犯への協力を呼びかけ、保護者や地域の動きを引き出そうと努めている。また、組織的な動きに対する感謝の気持ちをいろいろな方法で伝え、活動のよさをしっかり認めながらかかわっている。保護者や地域の人々の目と心を防犯に向けていくようにするためにもこの努力は続けていかなければならない。
- ② 学校の姿勢として校長自らが地域に出て、人々とかかわりながら情報を収集し、地域を知る努力をしている。また、教職員も巡視等にかかわったり、保護者や地域とのコミュニケーションをとりながら危険箇所等の把握や通学路の再点検をしたりしており、そのことが的確な情報の把握につながっている。保護者や地域との信頼関係を保つためにもこの姿勢を維持していく必要がある。
- ③ 保護者や地域の人々の防犯意識を高め、地域巡視などの取り組みを通して子どもたちの安全が守られているが、それと並行して行っている「安全教室」は自らの身を守るという意識をもたせ、いざという時の対応のために有効な取組である。これからも繰り返して実施する必要がある。
- ④ 毎日あいさつをかわすなど防犯巡視員と子どもたちとのかかわりはほほえましく、心のつながりが感じられ、地域の中で子どもたちが育っているということを実感するものである。生徒指導における大切な視点としてしっかりと見つめていかなければならない。
- ⑤ 地域性により防犯のための組織が作りにくく、保護者の当番に頼らざるをえないという学校もあり、「学校ボランティア防犯巡視員」の取組に苦慮しているという実態があることも否めない。また、これまでの動きから健全育成部などPTAの一部の組織に任せられているところもあって、「地域の子どもは地域で守る。」という意識をどう高めていくかが課題として残っている。

## 4 おわりに

学校の危機感を持って子どもの安全を守ろうとする思いが、保護者や地域人々に働きかけ、学校をサポートする姿勢を生み出している。何かあった時の情報の発信も含めて、危機感をどのように伝えていくかがポイントになっているように思う。そのためには、常日頃から学校は地域の中にある学校として、保護者や地域と共に歩んでいるという姿勢を示していくことが大切である。信頼の上に構築される実践は、より着実な歩みとなりサポートする人々の結束力を高めていく。正しい情報を伝え、学校としての取組をしっかりと受けてもらえるように、心がけたい。

「安心・安全」は学校教育の基盤でもある。校長として経営の柱として意識を高め、教職員をリードし、組織として機能していくように働きかけていかなければならない。学校が主体性をもって、地域や保護者の理解と協力を得ながら推進していくことができるようにするためにも、教職員の意識を高めていくことが大切である。これからの担う子どもたちのために、安全・安心な学校づくりの重要性を改めて意識するものである。